

平成 25 年度 事務事業評価シート 新規 継続 変更

一般ソフト事業 施設等維持管理 行政事務

事務事業名	すこやか節目訪問事業	予算事業名		担当課	健康福祉課						
会計名称	一般会計	予算科目	4 款 1 項 4 目	所属長名	藤 充子						
総合計画での位置づけ	すべての町民が健やかに暮らせるまちをつくる			担当責任者名(記入者)	持松 可奈子						
事業の性格	<input checked="" type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 法定事務		法令根拠等	健康増進法							
事業の対象	当該年度に40歳・60歳になる住民		実施期間	【開始年度】	平成 24 年度						
				【終了年度】	平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし						
事業の目的	40歳・60歳の実態を把握、節目となる年齢に自らの健康について考えてもらう機会とする。また、健診・健康相談・剖検事業など町の保健事業の周知を行い、健診受診率の向上へつなげる。		事業の内容	40歳・60歳を迎える月に保健師が個別訪問を行う。町の保健事業の紹介と保健事業利用の勧奨を行う。健康づくりの推進として、町のフィットネス体験チケットを配布。							
改善策の具体的な取り組み(当初)	保健師が地区担当制で訪問指導を実施しており、母子から老人までの年代を対象に、担当地区住民の健康保持増進に取り組んでいる。生活習慣病予防の必要な壮年期を対象に、町の保健事業の利用を図る。		改善策の具体的な取り組み(二次評価後)	平成24年度は40歳のみ対象に訪問を実施したが、退職など節目を迎える60歳も対象へ加え町の保健事業への参加を勧奨することとした。							
事業費及び財源内訳 (千円)											
項目		24 年度決算	25 年度予算	9月末の執行状況	25 年度決算						
事業費	直接事業費	136	140								
	人件費	1,457	1,131		1,131						
	合計	1,593	1,271		1,131						
財源内訳	国庫支出金										
	県支出金										
	地方債										
	その他										
一般財源	1,593	1,271		1,131							
事務量	① 人工数	0.20	0.16		0.16						
	② 人件費単価	7,289	7,073		7,073						
	③ 補助事業人件費										
	人件費(①×②-③)	1,457.80	1,131.68		1,131.68						
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)		26 年度		27 年度	28 年度						
		650		10	10						
		29 年度		30 年度	5年間の合計						
		10		10	690						
成果指標	満41歳・61歳の生活習慣病予防健診の受診率			区分年度	24 年度						
指標設定の考え方	対象者の健康の保持増進を図るため、町の保健事業の利用を勧奨している。訪問を実施した対象者の次年度の健診受診率の向上を指標とする。			実績	26.9%						
				目標	41歳30% 41歳30%/61歳50% 41歳 50%/61歳80%						
今年度の課題への対応状況(途中経過)	訪問時に不在の方へ対しては、配布資料と不在連絡票をポストに投函し電話連絡、または家族の方へ説明を行っている。訪問時に町の保健事業を初めて知る方もおり、継続して訪問活動を行う必要がある。										
事業の一次評価(所属長)	自己評価(担当者)	妥当性	目的の妥当性	5 施策の目的そのものである。 4 施策の目的に沿ったものである。 3 施策の目的に全くそぐわない。 2 1	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E	B	壮年期にあたる40歳から生活習慣病の予防が必要と考えられ、町の保健事業についてすこやか訪問事業以外の場でも周知・啓発をおこない、保健事業の利用を促す必要がある。			
			町民ニーズへの対応	5 町民ニーズに直結する。 4 受益者のニーズは捉えている。 3 町民ニーズを捉えたものと言えない。 2 1	3						
			町の関与の妥当性	5 町が積極的に関与すべきものである。 4 今のところ関与は妥当と判断できる。 3 町が関与すべきでない。 2 1	4						
		有効性	事業の効果	5 町民がおおいに満足している。 4 町民がほぼ満足している。 3 町民が満足していない。 2 1	3				合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E		
			成果向上の可能性	5 具体策が明確で、成果実績が向上している。 4 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 3 問題を解決できる見込みが全く無い。 2 1	3						
			施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に必要である。 3 施策推進につながらない。 2 1	3						
	効率性	手段の最適性	5 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 4 計画・手段が効率的である。 3 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。 2 1	3	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E	C					
		コスト効率	5 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 4 予算額内で目標の80%以上の実績をあげた。 3 成果実績に対して、予算額が過大である。 2 1	3							
		受益者負担の適正	5 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 4 適当な受益者負担と判断できる。 3 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。 2 1	3							
		一次評価(所属長)	妥当性	目的の妥当性			5 施策の目的そのものである。 4 施策の目的に沿ったものである。 3 施策の目的に全くそぐわない。 2 1		4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E	B
				町民ニーズへの対応			5 町民ニーズに直結する。 4 受益者のニーズは捉えている。 3 町民ニーズを捉えたものと言えない。 2 1		4		
				町の関与の妥当性			5 町が積極的に関与すべきものである。 4 今のところ関与は妥当と判断できる。 3 町が関与すべきでない。 2 1		4		
有効性	事業の効果	5 町民がおおいに満足している。 4 町民がほぼ満足している。 3 町民が満足していない。 2 1	3	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E							
	成果向上の可能性	5 具体策が明確で、成果実績が向上している。 4 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 3 問題を解決できる見込みが全く無い。 2 1	3								
	施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に必要である。 3 施策推進につながらない。 2 1	4								
効率性	手段の最適性	5 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 4 計画・手段が効率的である。 3 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。 2 1	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E	B						
	コスト効率	5 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 4 予算額内で目標の80%以上の実績をあげた。 3 成果実績に対して、予算額が過大である。 2 1	4								
	受益者負担の適正	5 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 4 適当な受益者負担と判断できる。 3 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。 2 1	4								

事務事業名	すこやか節目訪問事業	予算事業名		担当課	健康福祉課
会計名称	一般会計	予算科目	4 款 1 項 4 目	所属長名	藤 充子
総合計画での位置づけ	すべての町民が健やかに暮らせるまちをつくる			担当責任者名（記入者）	持松 可奈子
				電話番号（内線）	
事業の性格	<input checked="" type="checkbox"/> 内部管理事務 <input type="checkbox"/> 法定事務		法令根拠等	健康増進法	
事業の対象	当該年度に40歳・60歳になる住民		実施期間	【開始年度】	平成 24 年度
				【終了年度】	平成 年度(予定) <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
事業の目的	40歳・60歳の実態を把握、節目となる年齢に自らの健康について考えてもらう機会とする。また、健診・健康相談・剖検事業など町の保健事業の周知を行い、健診受診率の向上へつなげる。		事業の内容	40歳・60歳を迎える月に保健師が個別訪問を行う。町の保健事業の紹介と保健事業利用の勧奨を行う。健康づくりの推進として、町のフィットネス体験チケットを配布。	
改善策の具体的取り組み（当初）	保健師が地区担当制で訪問指導を実施しており、母子から老人までの年代を対象に、担当地区住民の健康保持増進に取り組んでいる。生活習慣病予防の必要な壮年期を対象に、町の保健事業の利用を図る。		改善策の具体的取り組み（二次評価後）	平成24年度は40歳のみ対象に訪問を実施したが、退職など節目を迎える60歳も対象へ加え町の保健事業への参加を勧奨することとした。	

（担当責任者） 自己評価	妥当性	目的の妥当性	4	B	B	4	目的の妥当性	妥当性	一次評価	
		町民ニーズへの対応	3			4	町民ニーズへの対応			
		町の関与の妥当性	4			4	町の関与の妥当性			
	有効性	事業の効果	3	C		B	3	事業の効果		有効性
		成果向上の可能性	3				3	成果向上の可能性		
		施策への貢献度	3				4	施策への貢献度		
	効率性	手段の最適性	3	C		B	4	手段の最適性		効率性
		コスト効率	3				4	コスト効率		
		受益者負担の適正	3				4	受益者負担の適正		
							4			
課題認識	壮年期にあたる40歳から生活習慣病の予防が必要と考えられ、町の保健事業についてすこやか訪問事業以外の場でも周知・啓発をおこない、保健事業の利用を促す必要がある。 自己評価は、担当者が主に事業推進を効率的効果的に進めたかどうかを評価したもの。 一次評価は、担当者の自己評価を踏まえて施策の推進を念頭に置き、所属長が評価したもの。				保健事業の周知および健康への意識づけとして必要な事業と考える。継続して成果をみていく必要がある。		課題認識			

施策を踏まえた判断	二次評価（所属長）	<input type="checkbox"/> 一次評価結果より以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。 一次評価をやり直し、 月 日 までに事務局へ提出すること。 行政評価委員会で評価する。 答申期限： 月 日
		<input checked="" type="checkbox"/> 一次評価結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/> 一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/> 一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。	
		<input type="checkbox"/> 町民サービスに直結する主要事業のため、評価そのものを行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 一次評価結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/> 一次評価結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容 【 評価 A : 計画どおり事務事業を進めることが適当である。 】 当事業は「町おこし」の施策として考えるべきレベルであり、全国どころか世界的にも稀にみるほどの事業である。内容もその後のフォローアップも充実したこの健診を広くアピールし、受診者を増やす工夫をされたい。 なお、未受診者については分析を行い、ターゲットを定めて広報戦略をたてていただきたい。町の魅力として人口増に結びつくことを期待する。
------------	------	--

経営者会議の最終判断	事業の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> さらに重点化する。 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する。 <input type="checkbox"/> 右記の点を見直しの上、継続する。 <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する。 <input type="checkbox"/> 事業の休止、廃止を検討する。	コメント欄 未受診に対しては分析を行い、単なる職場の健康診断とは違うということをアピールし、一人でも多くの方が久山町の生活習慣病予防健診のすばらしさを理解し、受診に繋がるような広報戦略を検討すること。
------------	--	---